

2

八王子駅南口周辺地区の概況

2-1 提言書のポイント

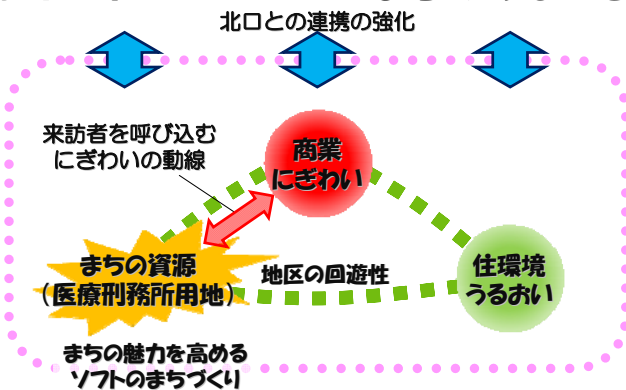
まちづくり方針の策定にあたっては、市民の考える望ましいまちづくりを示す提言書の内容を踏まえています。以下に、提言書のポイントを示します。

●ポイント1 ……南口の独自性や今ある資源を活かすまちづくりを提案

将来像:歩いて楽しめる個性的なにぎわいと良好な住環境が調和するまち

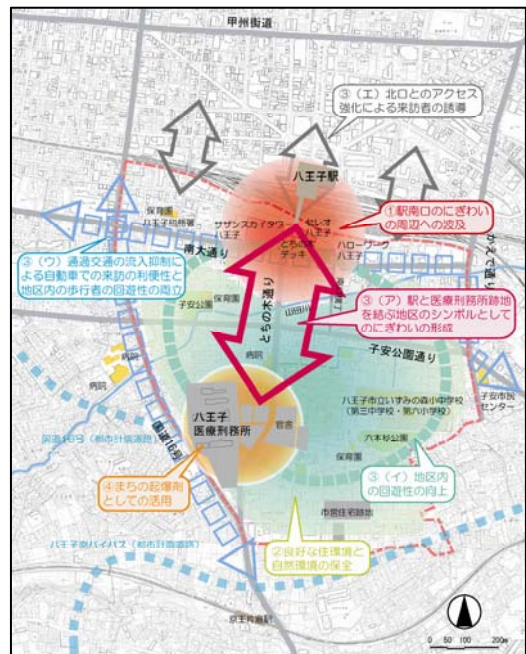
個店のにぎわいや身近な緑や水辺などに恵まれた良好な住環境を「南口ならではの」の魅力と捉え、それらを活かす将来像が提案されています。

●ポイント2 …… まちのあるべき姿としてまちの骨格形成を提案



駅前の「にぎわい」、医療刑務所用地という「新たなまちの資源」、南口の特徴である身近な緑や水辺に囲まれた「良好な住環境とうるおい」、それらをつなぐ「回遊性」という視点から、まちのあるべき姿を捉えています。

特に、駅前とその周辺を「にぎわいの中心」、医療刑務用地を「新たなまちの資源」、とちの木通りを「地区のシンボル」とし、まちの骨格を形成することが提案されています。



●ポイント3 ……エリアマネジメントなどソフトのまちづくりを重視

今後のさらなる展開のために…

全体のまちづくりについて

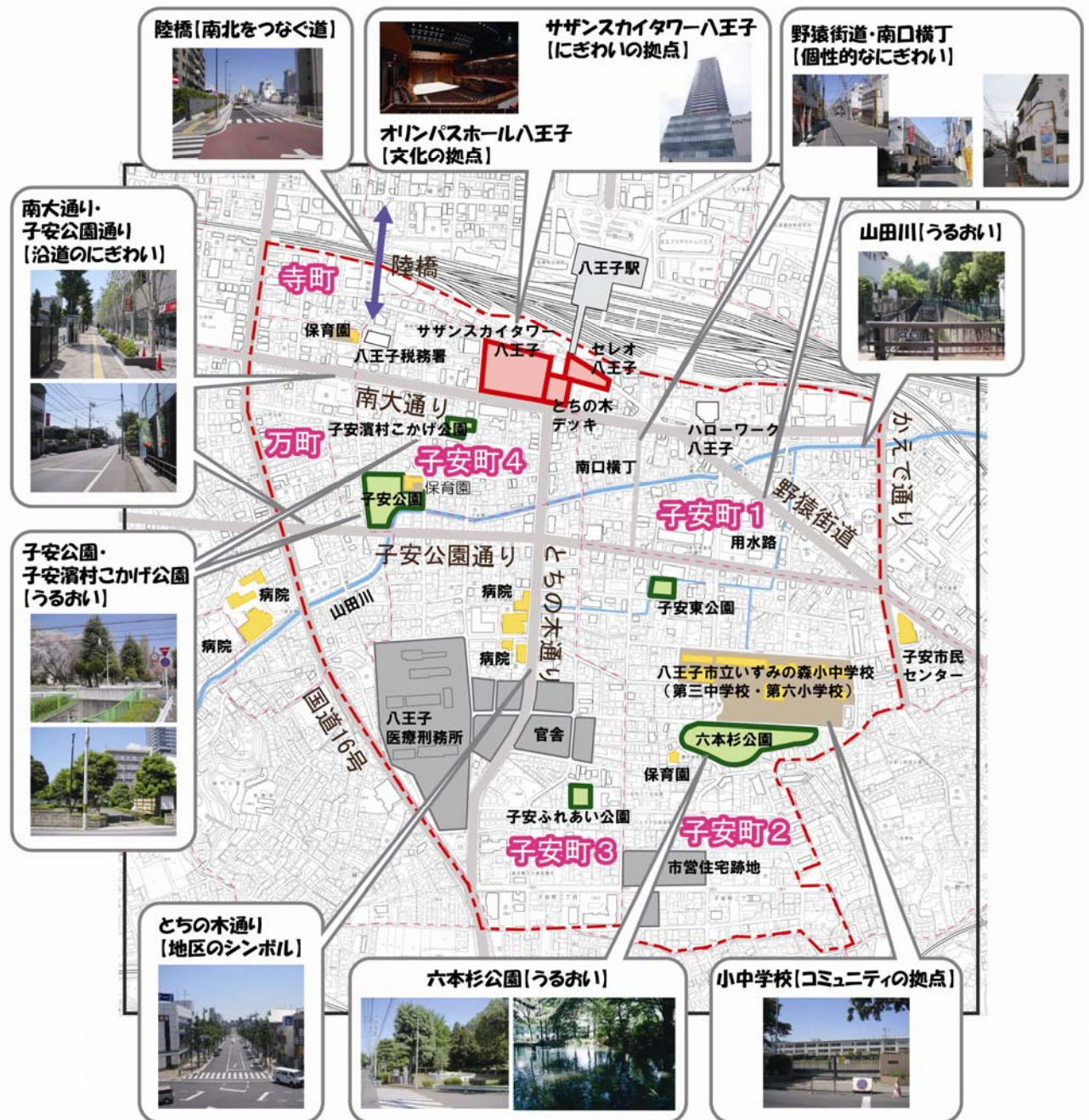
- ・ エリアマネジメントの形成・活動に向けた支援
- ・ 市民と関係機関が連携した総合的なまちづくり
- ・ 八王子市地区まちづくり推進条例を活用したまちづくり
- ・ 時代の移り変わりを踏まえたまちづくりを行う仕組みづくり

エリアマネジメントなど、市民・事業者・市が協働で取り組む持続可能なまちづくりの仕組みづくりが必要だと提案されています。この他にも、テーマごとに様々なソフトの取り組みの提案をいただきました。

2-2 八王子駅南口周辺地区の現況と地域資源、対象範囲

検討対象範囲は、八王子駅南側の子安町三丁目・同四丁目の全域と子安町一丁目・同二丁目・寺町・万町・旭町の一部から構成される、約84haの区域です。地区の南部に向かうにつれて標高の高くなる丘陵地で、良好な住宅地が広がっています。

地区内には多くのまちの資源があり、提言書でもそれらを活かしていくことが提案されています。



2-3 まちの現況と課題のまとめ

●にぎわい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

課題1:にぎわいの波及

再開発事業などにより駅前への来訪者は増加していますが、駅周辺のまちなかを回遊する人は多くありません。駅周辺のまちなかへ、にぎわいの波及を図ることが必要です。

課題2:まちの魅力の向上、発信、PR

地区内の多くの資源を活かし、磨き上げていくことで、まちの魅力向上を図るとともに、広く周知する広報活動やイベント活動などを展開することで、来訪者の増加を図ることが必要です。

●医療刑務所用地等の利用・・・・・・・・・・・・・・・・

課題1:まちの核となる活用方法の検討

八王子医療刑務所の移転は、まちの大きな変化の要因の一つとなることから、まちの新たな核としての活用を検討することが必要です。また、周辺の環境との調和に配慮することも必要です。

課題2:関係機関への働きかけ

市民が望む土地利用が将来に渡り継続できるよう、市が責任を持って関係機関と協議・検討し、有効活用に向けた積極的な働きかけを行う必要があります。

●地区の回遊性・・・・・・・・・・・・・・・・

課題1:歩いて楽しく安全な歩行空間の整備

坂や狭い歩道など地区の地形を踏まえ、歩行者が安全で快適に通行できる歩行空間の創出と回遊性の確保について検討が必要。また、歩いて楽しくなるまちなみを形成し、地区の魅力を高める必要があります。

課題2:駅南北の回遊性の確保

来訪者が八王子駅の南北の両地区を往来しやすくなるよう、駅南北の回遊性を高めることが必要です。

●住環境・うるおい(水と緑)・・・・・・・・

課題1:良好な住環境・景観の保全

地区南側に広がる閑静な住宅地は、今後も地区の貴重な資源として保全する必要があります。また他地区も、生活上の身近な問題の解決に向けた取り組みを推進する必要があります。

課題2:気軽に自然にふれあい、楽しく遊べる空間の整備

河川、水路や公園などの水と緑の空間を有効に活用し、安全性・防犯性にも配慮しながら、身近に自然を感じる空間を創出する方策の検討が必要です。

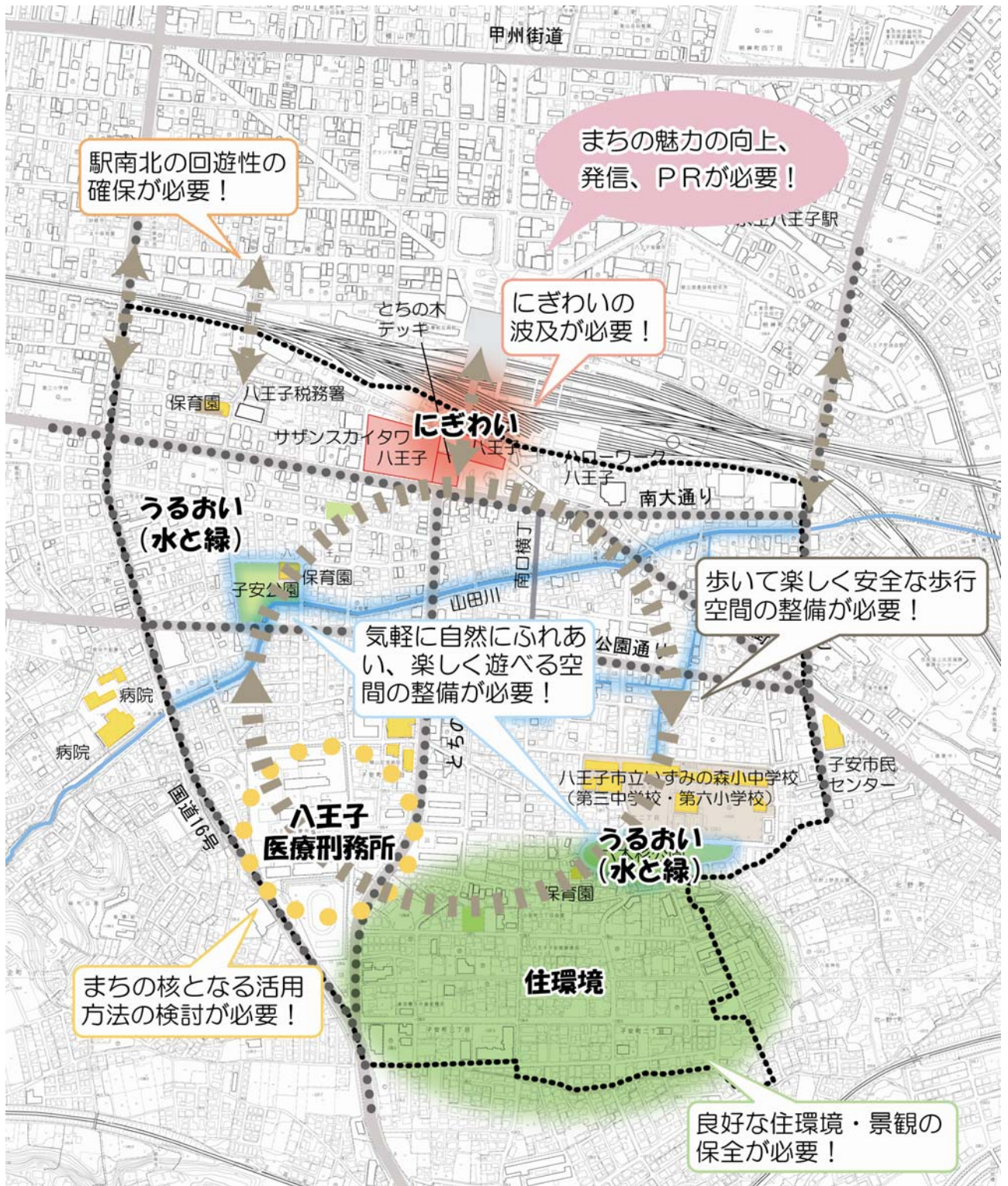


図 八王子駅南口周辺地区のまちの課題